

巻頭言

ディーセント・ワーク 雇用戦略と新しい仕事

堀内光子
ILO 駐日代表

世界の仕事・雇用情勢は、残念ながら明るくない。現在1億6千万人の失業者があり、さらに今後10年間で5億人が労働市場に参入してくる。1日1米ドル以下で暮らす人々が世界に12億もいる。加えて非典型雇用などの雇用関係の変化も大きい。仕事は多様化している。ILO総会議題にも、それが色濃く反映している。91年及び今年、インフォーマル経済（セクター）、97、98年の労働基準設定についての討議「契約労働」未合意のあと、来年は雇用関係の変化が一般討議される予定である。この他にも、90年代には、家内労働、民間職業紹介（派遣労働）などが討議、合意されている。仕事の多様化は、働く人々の権利や保護の低下をもたらすものも多くあり、必ずしも良い方向に向かっているわけでもない。グローバル化は、競争の激化をもたらし、価格低下、すなわち労働コストの低い市場に資本が動くという現実がある。ILO（世界労働機関）が目指しているディーセント・ワーク（働く人の権利が確保され、社会保護が保障され、労使対話のある仕事。いってみれば、人間らしい安心して働ける仕事）が、男性、女性、全ての人々に達成できる状況には、程遠い。

まともな仕事を持つことが厳しい状況にあるからこそ、皮肉にも人々は、まともな仕事を持つことへの渴望が強いといえる。仕事は、貨幣経済下では生活の糧として不可欠であるとともに、生きていく意義を見出すものであり、社会的接触を保つものでもある。即ち、仕事は生活の基本中の基本といえよう。ところで日本は60年代からの高度経済成長期に企業社会が強化され、仕事とは雇われて働くこと、更にいえば、有名企業で働くことが人生の勝者の条件になってきたと極論できる状況になっていた。仕事といえば「自分が何をしている」ではなく、「企業の社員あるいは何かの役付き」が自分の仕事を示すものであった。（今でもまだある。）このことは、企業の社会で果たしている役割の大きさを否定するものではない。グローバル経済の進展で、多国籍企業のごとく、世界を席捲し、中進国のGDPなみの売上（取引）高を誇る企業もある。我々にとって仕事を考えるときの問題は、「会社人間」しかないのかという疑問である。

世界を見渡せば、企業というフォーマルな形でなく、インフォーマル すなわち必死に働いているにもかかわらず、その活動が認知されず、保護も、法の適用も受けない形の働き方も多い。特に途上国の女性が多い。インフォーマル経済の拡大は、貧しさ故に目の前

にあるつまらない仕事にありつくという現実に加え、企業の雇用創出能力の低下や都市部に移動する人々の多さによる。グローバル化との関連では、その影響から取り残されたことや、またグローバル化の競争激化によるコスト・ダウンの影響もある。インフォーマル経済が一過性のものではなく、急速に拡大していることは、人間らしい仕事を追及することのむずかしさを物語っている。一面で、新しい萌芽も含んでいるが。例えばコミュニティに根ざした仕事おこしや相互扶助・連帯に根ざした社会サービスが社会保障の再生などもあることも付加する必要はある。

ディーセント・ワークの欠如は、春秋に富む世界の若者にとって、特に深刻である。今後10年間で、世界では約10億人の若い人々が、生産年齢人口に達する。2000年に国連で開催されたミレニアム・サミットで採択されたミレニアム宣言でも、若い人々への雇用戦略は大きな課題とされている。この戦略のパートナーとしては、伝統的な政労使に加え、市民社会組織も想定されている。若い人々も含め、今、私たちは、意義のある仕事への模索が始まっているといえる。脱工業化社会での人間性の回復、社会の一員としての参加、連帯、自律、責任といったことへの回帰である。つい最近フィンランド・ヘルシンキで、新しい形の協同組合と出会った。医者と心理学者との共同・連帯で、今までにない新しい治療、簡単にいうと患者の持つポテンシャルを伸ばすことに着目した医療を行っている。協同組合が医者という高度な専門家集団でも可能という目を開かせられるものであった。既成のものではできない新しいジャンルに意欲的に取り組めるのも志を同じくする仲間集団の良さである。これもまた、最近出会った日本の女性たちが地域で取り組んでいる協同組合のリーダー達の情熱とプロフェッショナルリズムと相通ずる。

フィンランド・テンペレでは、今、アジアとヨーロッパの研究者、政策責任者が集まってグローバル化の中での仕事と女性、政治決定への参画の対話を行っている。複雑化する社会で社会変革の新しいアプローチを探っている。多様な選択肢が提供できる社会で、人間らしい仕事ができる、そのパワフルな選択肢の一つとして、若者も、熟年も、女性も、男性も、働きかつ経営する仕事おこしの近代的な協同組合が浮かびあがっている。